

## JAXA 筑波宇宙センター見学報告

ジュニアドクター育成塾第二段階プログラム受講生対象

実施日：2019年8月18日（日）

参加受講生：第二段階プログラム受講生から抽選により4名（小6：3名，中1：1名）

引率教員：佐藤

日程：8/17 9:30 津山駅集合 浅草泊

8/18 13:30 JAXA 筑波宇宙センター見学 浅草泊

8/19 15:35 津山駅解散

【見学場所】JAXA 筑波宇宙センター（〒305-8505 茨城県つくば市千現 2-1-1）

【目的】日本で最大規模の宇宙航空開発施設である筑波宇宙センターを見学することで、最先端の宇宙科学や航空技術の研究についての知識を身につけ、受講生に宇宙についての興味・関心を深めてもらうことをねらいとする。

### JAXA での見学時の様子



17日の午後ホテルから近いスカイツリーへ



H-II ロケットの前で



見学ツアーはバスで移動



はやぶさ2 実物大模型の前で



きぼう実物大模型

## 参加受講生のレポート

以下のように提出を依頼しました。  
見学して一番印象深かったことを、200字から300字で説明してください。また、その内容に関係しそうな写真を1枚付けてください。Wordで作成して、事務局へメール添付で提出してください。期日は今月中、8/31までに提出してください。

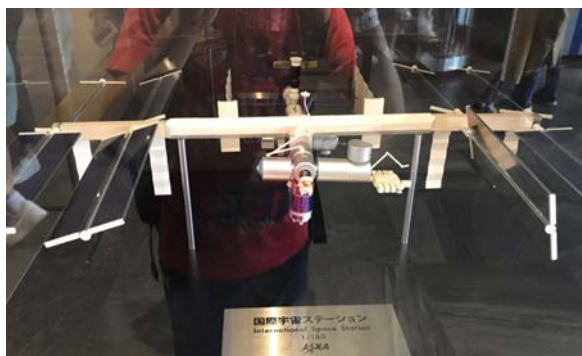
以下に提出されたレポートを掲載します。

### 小学校6年生 T君のレポート

JAXA 筑波宇宙センター見学で一番興味を持った事は、「きぼう」です。

「きぼう」は地上約400km上空に建設された人類史上最大の宇宙施設、国際宇宙ステーションの日本実験棟です。

筑波宇宙センターの見学では、日本初の有人実験施設日本実験棟「きぼう」の船内実験室や船外実験プラットフォームや国際宇宙ステーションの映像を見ることができました。



「きぼう」日本実験棟は、宇宙飛行士が長期間滞在し活動できる日本で初めての有人施設で、最大4名まで搭乗できます。「きぼう」は主に、6つで構成されています。

まずは、船内実験室と船外実験プラットフォームという2つの実験スペースがあり、生命科学や宇宙医学などの実験、宇宙観測などが行われています。船内実験室の大きさは、おおよそバス1台分ほどの長さです。船内は、普段着で作業ができます。「きぼう」船外実験プラットフォームは、船内実験室から操作をして、実験装置を船外に出し入れすることができます。宇宙の特殊な環境を利用して、様々な実験や技術実証が行われています。生命科学では、メダカ飼育が行われました。世界で初めての実験でした。

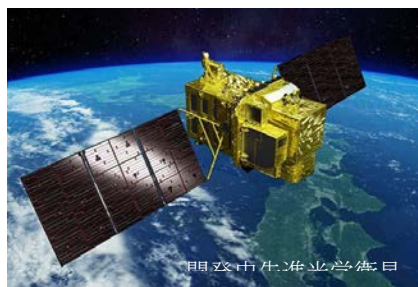
残りの構成は、船内保管室、船外パレット、ロボットアーム、衛星間通信システムです。船内保管室は、倉庫の役割を持ち、宇宙飛行士の私物もここに置くそうです。

筑波宇宙センターには、「きぼう」の運用管制室があり、24時間体制で運用を行っています。運用管制室を外から見学することができました。運用管制室にはシステムの専門知識を持つ運用管制員の人たちが、パソコンの前に座って実際に作業をしている姿を見ることができました。

## 中学校 1 年生 Y 君のレポート

2019 年 17 日～19 日に、佐藤誠先生の引率で、jaxa 筑波宇宙センターを見学しました。

まず、jaxa 筑波宇宙センターの見学ツアーに参加しました。そのツアーでは、「宇宙食紹介」「jaxa 筑波宇宙センターの紹介ビデオ上映」「きぼう運用管制室」「宇宙飛行士養成エリア」などの見学をすることができました。



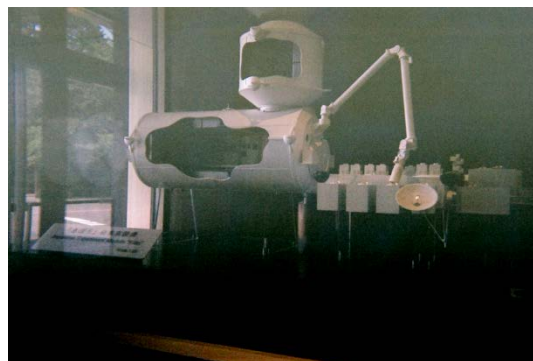
私は、「jaxa 筑波宇宙センター紹介ビデオ上映」の一部でも紹介されていた、人工衛星に興味を持ちました。自分にとっては人工衛星などは日ごろの生活からかけ離れたものと思いますが、人工衛星の活躍は私たちの生活で必要不可欠な地図や天気予報など日ごろの生活に役立っているということが改めて分かりました。

私は、今回の jaxa 筑波宇宙センター見学を通して宇宙開発事業に興味をもちました。そして、宇宙開発事業なくしては、現代社会は、成り立たないということがわかり、その大切さを学ぶことができました。

## 小学校 6 年生 S 君のレポート

僕が一番印象に残ったことは、「きぼう」にです。このことは JAXA のバスツアーで学びました。

日本の研究しせつ「きぼう」は最大 4 人で活動できます。また、カレーなど日本が独自に開発した宇宙食がありました。すごいなと思いました。



ベッドはかたむいている状態でした。かたむいているのにねむれるのかなと思いました。改めて考えてみると無重力なのだから上下関係ないのかなと思います。

また、その「きぼう」のある国際宇宙ステーションに物資を運ぶ「こうのとり」もすごいと思いました。なぜなら、日本が独自に開発したものだし、さらに、世界で一番重い 6 トンもの物資を一度に運べるからです。

## 小学校 6 年生 U 君のレポート

筑波宇宙センターに行って心に残ったことは外にある HII ロケットです。

この HII ロケットは実物大で、これを作るのに使った部品は、宇宙に行ったロケットの予備のパーツを使っているのです、本物のロケットと変わらないものだそうです。本物なので、燃料を入れると宇宙まで飛んでいきそうです。HII ロケットは約 52m で、ちょうど後ろに見える建物と同じ高さだそうです。本物のロケットがあることにとても感動しました。

お土産が売っている所には、JAXA と書かれた帽子や、ロケットのナノブロックなどが売っていました。他にも初代のロケットが置いてありました。

あの大きなロケットがこの小さなロケットから始まったというのは初めて知りました。

